

地域医療支援センターだより

《来年度に向けて》

地域医療支援センター長
橋本正明



医療・介護報酬同時改定

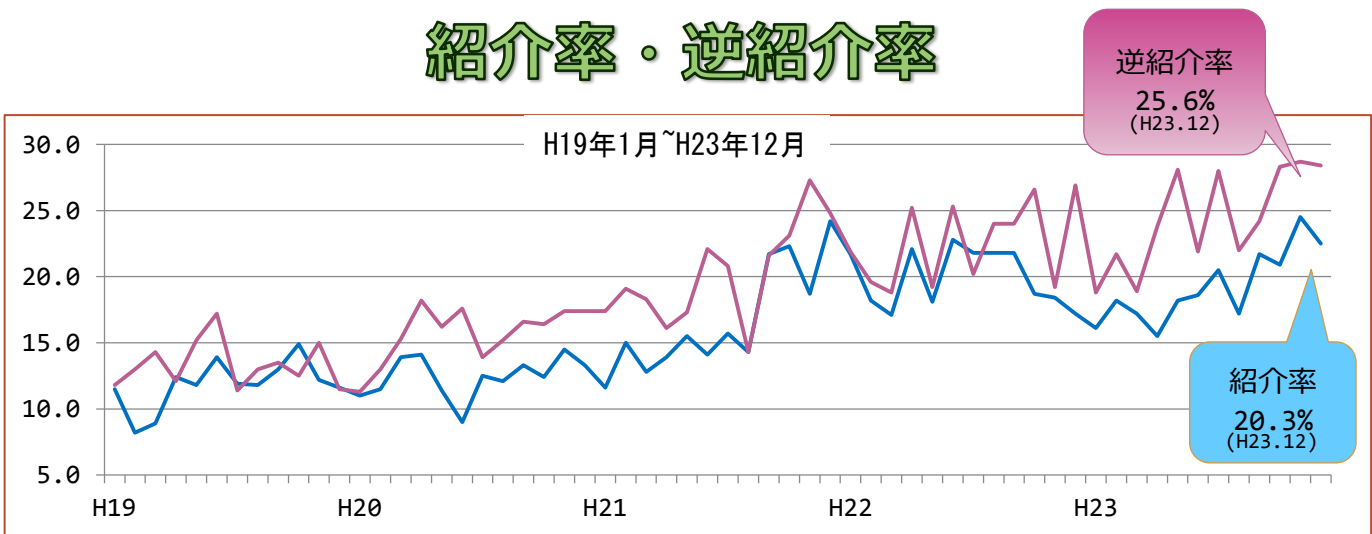
本年はいよいよ医療と介護の同時改定の年となりました。なにやら世界中の政治や経済の行く末に暗雲が漂い始めている中、国内においても政府の「社会保障と税の一体改革」の素案の提出など、新年に入り矢継ぎ早に変化が見られてきています。所詮、すでに起こった未来、世界でダントツの少子高齢化社会に対する積極的な対応として、病院自体のあり方も問われてきます。高度急性期、一般急性期、亜急性期など一般病床の明瞭分化や、地域連携の更なる促進、在宅へ向けた、より一層の包括的なマネジメントが求められてきます。当院の地域医療支援センターも本年度はその趣旨に沿って、能登地域住民のためにより一層望まれる地域連携へ向け、奮闘努力する所存です。

今後の具体的行動案としては

- 1) 平成24年度からの地域医療支援センターアクションプランの作成
- 2) 地域医療支援病院(※)へ向けて院内診療の質改善への支援、新しいサービス提案
- 3) より一層の逆紹介、紹介運動

などなど、本格的な実効性を持った活動が始まることをご理解いただければ幸いです。関係職員の皆様には、上記の趣旨をご理解いただき、本年も宜しくご協力をお願いいたします。

紹介率・逆紹介率



※地域医療支援病院（医療法第4条）承認要件

・紹介患者中心の医療を提供していること（紹介率が40%を超え、かつ、逆紹介が60%を超えること）厚労省事務次官通知

特集

(3回)



地域医療支援センター内 “癒しの空間” へどうぞ

当センターの一角に、開放病床を利用する開業医の先生方のための作業スペースがあります。私たちは、このスペースを利用される先生方にとって、ほんのつかの間の“癒し”を感じていただくため、つねに清潔を心がけ、季節の花をそっと添えるなど快適な空間づくりに気を配っております。さらに、この癒しの空間づくりに協力してくださっているのが、「Osao's shutter」コーナーです。そう、中泉先生が撮影されたと一つでも素敵な写真の数々が壁一面に並べられていますのです。美しい景色や珍しい光景、おもしろい瞬間など、実際にその場に居合わせているような臨場感あふれる作品などテーマは様々です。当センターのスタッフもいつも感動し、気がつく写真の前で数人のスタッフがマイナスイオンを浴びるかのようにぼけーと癒されています。この写真のおかげで開業医の先生の表情もいつの間にやら穏やかになり相互の連携もずっと充実するものにつながっています。機会がありましたら院内の方々も是非この“癒しの空間”にどうぞ。

訪問看護係 体験レポート

やっぱり

“家ってすごい”

皆さんは、病院で「人工呼吸器を装着している患者」と聞くと「自宅で看ることはできない」⇒「どこかの病院へ転院」と、と考える人が多いのではないのでしょうか？

現在、在宅で人工呼吸器を装着し、寝たきり状態で、家族に支えられながら在宅療養を続けられておられる方がいます。初め私がこの患者さんのことを聞いた時、多くの医療処置が必要であること、奥さんと二人暮らしであることなど、はたして在宅療養ができるのかと、とても心配でした。しかし、奥さんが「自宅で介護したい」という強い熱意と、主治医・病棟看護師・ケアマネが退院後におけるサービスについてしっかり調整できたことでついに在宅療養が出来るようになったのです。

奥さんは常にご本人に明るく声をかけ、また近所に暮らしている子供さんやお孫さんたちもよくこの家に遊び来てご本人に話しかけます。最近ではご本人さんがお孫さんたちの話しに対し笑顔を見せてくれるようになったそうです。私は入院中には見られなかった姿であることから「病院や施設ではここまで良くならなかったかも。やっぱり家ってすごいなー」と実感させられました。奥さんは、在宅療養について「お父さんを見ながら家事もできるし、病院だったら3日と嫌になりますよ」と話されていました。通所サービスの利用は難しく、奥さんにとって自由な時間は本当に限られています。私たち訪問看護はこのような明るく元気にがんばっている奥さんを、これからも支えて生きたいと思っています。

地域医療支援センターの今年度のモットーは “つなぐ・つながる・つなげる” です

院内外の皆様と手と手を取りあって繋がっていききたいと思います。

皆様 仲良く仲良く！ よろしく申し上げます！